

2018年8月5日実施

2018年 くまもと戦争遺産の旅  
アンケート分析結果 概要

東海大学 経営学部 観光ビジネス学科  
観光街づくり研究室  
准教授 高野誠二

# アンケートの目的

- 戦争や平和についての関心を高めるためにはどのような工夫が効果的か、そのヒントを探る
- 今回の戦争遺産ツアーのような「体験型」学習の効果を高めるためのヒントを探る

- 質問項目

性別、年齢区分、これまでの戦争学習の有無、これまでの体験型学習の有無、戦争遺産ツアーの効果の評価（10点満点）、「戦争」や「平和」での連想単語、「戦争」や「平和」にまつわるイメージ、ツアー参加しての意識変化や行動意識

# 「戦争」や「平和」について何を連想するのか？ ＝どんな事柄と結びつけて考えているか

- 連想する単語を自由にいくつでも記入
- 「兵器・戦闘・戦地」、「感情」、「生活・家族」、「生死・人権」、「政治」、「対話・教育」、「平和象徴」、「その他」の 카테고リーに分類して、その数をカウント

## 連想単語「感情」の平均出現個数

例：恐ろしい、悲惨、愛、幸せ・・・

	59歳未満	60-69歳	70歳以上	計
男性	0.0	0.5	0.3	0.3
女性	2.0	1.0	0.4	1.0
計	1.4	0.8	0.4	0.8

## 連想単語「生活・家族」の平均出現個数

例：食糧難、配給、家族離散、学童疎開・・・

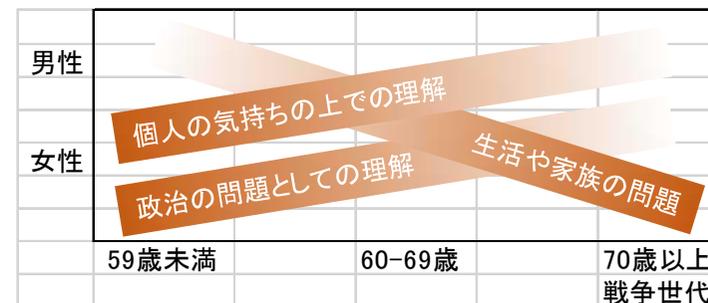
	59歳未満	60-69歳	70歳以上	計
男性	0.0	0.0	1.3	0.7
女性	0.3	0.3	2.0	1.0
計	0.3	0.2	1.7	0.8

## 連想単語「政治」の平均出現個数

例：国連、憲法九条、したらいけない・・・

	59歳未満	60-69歳	70歳以上	計
男性	1.0	0.0	0.0	0.2
女性	1.5	0.7	0.2	0.7
計	1.1	0.5	0.1	0.5

## 「戦争」や「平和」のとらえ方



# 体験型の学習経験が豊富な人は・・・

- この10年程度の中で、戦争遺産や戦争に関する資料館・博物館などの訪問経験があるか、戦争や平和に関すること以外に体験型学習の経験があるか の回答別に分類

連想単語「兵器・戦闘・戦地」の平均出現個数

例：沖縄、原爆、特攻隊、機銃掃射・・・

戦争や平和 関連の見学	戦争や平和以外の体験学習		計
	有り	無し	
有り	0.5	0.3	0.4
無し	-	0.8	0.6
計	0.5	0.4	0.4

連想単語「平和象徴」の平均出現個数

例：折鶴、ハト・・・

戦争や平和 関連の見学	戦争や平和以外の体験学習		計
	有り	無し	
有り	0.2	0.1	0.1
無し	-	0.4	0.3
計	0.2	0.2	0.1

連想単語「生死・人権」の平均出現個数

例：命、死、生きる、人権、人間の尊厳・・・

戦争や平和 関連の見学	戦争や平和以外の体験学習		計
	有り	無し	
有り	0.3	0.4	0.3
無し	-	0.2	0.1
計	0.3	0.3	0.3

連想単語「政治」の平均出現個数

例：国連、憲法九条、したらいけない・・・

戦争や平和 関連の見学	戦争や平和以外の体験学習		計
	有り	無し	
有り	0.2	0.2	0.2
無し	-	0.0	0.0
計	0.2	0.2	0.2

⇒学習の深度が深いと、単純で即物的な連想よりも、概念的な事柄や大局的な背景と結びつけて理解することができるようになる

# 戦争遺産訪問ツアー（体験型学習）の効果

- 戦争や平和について今回のツアーのように体験型で学習することは、非体験型の学習（本やTVを見たり授業や話を聴く）に比べて、学習効果はどうでしょうか？ 10点満点で回答

体験型学習経験の有無別にみた今回ツアーの評価

戦争や平和 関連の見学	戦争や平和以外の体験学習		計
	有り	無し	
有り	9.5	8.8	9.1
無し	-	8.2	8.4
計	9.5	8.7	8.9

⇒体験型学習の経験豊富な人ほど

・体験型学習の意義を高く評価

⇒体験型学習について目が肥えた人

・今回のツアーを高く評価

戦争や平和について持っているイメージの有無別にみた今回ツアーの評価

イメージ 種類	重大	現実的	身近	怖い	解決可能	個人レベルの 対策や意識 改革が重要	面倒ではない
	有無						
有り	9.2	9.5	9.2	9.0	9.4	9.5	9.6
無し	8.7	8.7	8.8	8.9	8.8	8.7	8.8
有り-無しの点差	0.5	0.9	0.4	0.1	0.6	0.8	0.8

⇒戦争や平和について、現実のものとして、個人個人が積極的に向き合うべきものとして考えている人ほど、今回のツアーを高く評価

# 戦争遺産訪問ツアー後の意識変化

- 自分の意識や気持ちの変化、自分でもできることを行動してみようと考えたか？ 自由記述で回答
- 内容を、「周囲に伝える」、「平和への決意」、「命の尊さ」、「戦争の身近さ」、「体験型学習を評価」、「さらなる知識獲得」の категорияに分類

意識変化「周囲に伝える」を挙げた割合

	59歳未満	60-69歳	70歳以上	計
男性	0%	0%	33%	17%
女性	75%	60%	67%	65%
計	57%	40%	53%	49%

⇒女性は周囲に伝えたい意欲が高い

意識変化「体験型学習を評価」を挙げた割合

	59歳未満	60-69歳	70歳以上	計
男性	100%	50%	0%	33%
女性	25%	30%	22%	26%
計	43%	33%	13%	27%

⇒若い世代ほど、体験型学習を評価

戦争や平和について持っているイメージが、意識変化や今後の行動へと繋がる割合

イメージ	意識・行動					個人レベルの 対策や意識 改革が重要	
	重大	現実的	身近	怖い	解決可能	面倒ではない	
周囲に伝える	62%	64%	40%	75%	86%	46%	60%
平和への決意	14%	18%	0%	25%	29%	15%	20%
命の尊さ	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
戦争の身近さ	29%	45%	50%	0%	29%	38%	20%
体験型学習を評価	24%	0%	0%	50%	14%	0%	0%
さらなる知識獲得	24%	0%	10%	0%	0%	31%	20%

⇒例えば「解決可能」といったメッセージを重点的に伝えたりといった工夫を凝らすことで、教育効果を高めることができるのではないかと考えられる。

# アンケート回答者の性別・年齢構成

	59歳未満	60-69歳	70歳以上	計
男性	2	4	6	12
女性	4	10	9	23
計	7	15	15	37

- 調査対象者の数が少ないので、細かい分析が十分にできない。統計上有意な結果を得難い。
- ⇒ 同内容の2019年のツアーでも同項目のアンケート実施により、母数を増やすことで更なる分析の充実が期待される

# まとめ

- 体験型学習として、今回のツアーは十分な効果を挙げているし、参加者の評価も高かったと言える。
- 体験型学習としての戦争遺産訪問ツアーの中に、あるいはその前後の学習機会の中に、例えば「解決可能」といったメッセージを重点的に伝えたりといった工夫を凝らすことで、教育効果を高めることができるのではないかと考えられる。
- 個人が行動を起こす動機付けになるイメージ(例:「解決可能」)を持ってもらえるような要素を、プログラムに織り込むことで効果を高めることができる。=体験型学習を補完する教育プログラムの提供という役割をピースくまもとの博物館が担うことで効果を高めることができる可能性。
- 体験型学習について指摘される効果や問題は、既知の研究成果(地球温暖化問題を例として取り上げた研究↓)と一致している

朝倉暁生・川畑隆常・平松あい・高野誠二(2003)合意形成における価値観理解支援のためのロールプレイング型ワークショップの評価に関する研究.『環境情報科学論文集』第17巻, pp.201-206.

朝倉暁生・高野誠二・平松あい(2008)地球温暖化問題への関心・行動とイメージに関する研究.『環境情報科学論文集』第22巻, pp.333-338.

- P.S. 情報や現地整備が不十分な海外での戦争遺産の見学実習を行うことの効果と問題点についてまとめた論文を発表しました

高野誠二(2019)ミクロネシア連邦ポンペイ州における戦争遺跡の現況と教育・観光面における活用策の検討. 東海大学国際教育センター紀要 09号, pp..105-125.

[https://www.u-tokai.ac.jp/about/research/facilities/tiger/kiyou/pdf/2019\\_009/08.pdf](https://www.u-tokai.ac.jp/about/research/facilities/tiger/kiyou/pdf/2019_009/08.pdf)